湖月抄

あ

五十

内閣文庫

東屋

孟四河四方へあまもりれおつるやうにもろ屋あり 細巻

名以青羊詞号之 孟日 師青 所

ぎさあげまやのあまもりぞあるあまぞ知りい

あげまもとづりあもこあれども紫屋のかまあるべ異青

とりて巻の名ととりてつづし 細 葦れ女葉の八月

もり九月もぐのまあり 孟日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一西人詠て云常陸の
あこうの〳〵ひいらこ
はくく忘れてこうろ
いふなり　孟方くこう
浮舟のこをいふなり
近かねく母のかもせり
そうく

さいくと　細　春中とり
そうてこなけ重ね
えいさせうもみそれ
くし仰家内妻饒く
とそもものく

うくこそそうよひる
もも　物　常陸浮舟
を徐男よりふも母
くあるもくんく

八月ばうくくめて
浮舟の往来をかねる
やくくせうり
てうどとうけくく
くさあそび物を
浮舟の往来の用をに調
度をこうくんりてあそ
び物をぐせくく

とくうのとうれうんくく
くくてんをれて
くくさをくく八浮舟の侍女
みてくくくねもくく
とくくくあそくくて母の
陸よりこせて求さるく
あのくくはう　細　今の
ゆかのあるとうふ
花内教坊八大この舟の
くくくよる一ひく樂
人兼指ぐのあ
所伝紀に天徳三年十月
九日石内教坊妓女十人
令奏糸行くく若菜の

孟貝のうく

物のくくあのくくく

物の指子の西白く

などは、うとそふんあくどとそひくくて、角
づくとと繋くくてくど紙まくけどくるさあ
そび物とをくせてをさ海くくよ。やうかう
うぷまくくを忘らてんのくく海やうくんどんまく
てどくくりの紙これうんくくくくくくれば
くくうくくくくくく

女樂の事よわり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

孟不平 ろうの
てうく ひのつくまゝ 紙わすれぬべ
めるよ りゝらぞかりはんぐくもしば
しまゝ ひとりゐて 中ごろかれる
ゝゝゝ ようれしうるんあるぐさこゝろをかれるの
ゝゝゝ ゝゝゝ ゝゝゝ ゝゝゝ ゝゝゝ ゝゝゝ

ゆうさんとゆてんのみさく
くしもべ〜仲イ本ニ作
うようんるるんのとあり
ふぶあるもしうりてあるめ
て　受仏とてもよく舞
とりてすーわがうーろ
むしようのをきくゆうさぬ
つをもうてゆさう
うふーどひいまのせまあ
るるく
ゆすーどーるーうーくるは
ゆりふるる　幾同ゆくく
浪舟を白ようつをも
ふるもかゆるるく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
孟敏を[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ちんぞうのかくのちんしと
ちく　所なくのしばなし
んぞうのちんしとあり。
三ぢ実と八常陸の女房たち
わらわらうんそを急をつ
らひさうらんぎの実よ
みくもなきさよりふ
づきうかあるうしいうや
うるるしくく
あてひてもおりまきに
細実めうらんく
衣あてひあてうちう
とうふうら乗あてひても
おりまきを八実なう
人とあめうう　盃
うの功人とく　細みう
みくしふ実あり。もも一所
ちうちうくや。但ひけと
うるぎて弦乱ぎの功よ
ひけのれくくうるる奥よ
みくくう盃ちのごとい
ふ反あれどうう只ひけ
し衣孤露みのこのう

らぬ行よおくすとと。ちんぞうのかやのや
んぞうちのくのしばなし
三ぢ実と八常陸の女房たち
わらわらうんそを急をつ
らひさうらんぎの実よ
みくくもなきさよりふ
づきうかあるうしいうや
うるるしくく
あてひてもおりまきに
細実めうらんく
衣あてひあてうちう
とうふうら乗あてひても
おりまきを八実なう
人とあめうう　盃
うの功人とく　細みう
みくしふ実あり。もも一所
ちうちうくや。但ひけと
うるぎて弦乱ぎの功よ
ひけのれくくうるる奥よ
みくくう盃ちのごとい
ふ反あれどうう只ひけ
し衣孤露みのこのう

よくのひうきるきんしうう
師細盃の仮工月ぶ務の
流ぎうとのうぐ八法ま
きうるうれどく
うくひのうくう八　細と家
の義人のひうく勅宣と
いうう。家えうう建盛
也うくうぬむの人媒外
ちうる今をうくいふ
勅ちんううの下ようを
仕べき報よ出ぶうう勅
ごてうる　細の義うう勅
宣ふ世給ようう河ひ
ごひうと天国初ひ諏訪
のうごてうう盃をひし
ううひのうくうひてやを
き盃氏国八主上のうに
作せあううと媒のれを
て常陸ようう　乗
我ひあれん　勅宣の
ううく媒のひうくむう
くし不下仮ぎうく
あうう人のれひとうう
うしうふうう。師ちう
よ

ひよ八海ぎうう
絶ちん。うう
ひうちづう
ううひてう
めざちうう
とまうけ
あをうふ
ううれう
ううこう
まうう
ううう
まとめう
行よ。

盃
今度日来記
盃
盃氏
盃
盃
盃
盃
盃
盃
盃
盃
盃

かねたのまふとさよふく
日ふあれてしそのん
乃むこよりてはあり
しそるそしのこ

この比の内しく　細殿の内
こ前のころれ内しくと
るる比何ことみこりり
こしひあんまして　おかね
よんさーとえをあさて
てところ　孟秋はこしひ
元さりしも書陸う知し
つこまりしこしこい社
つここもし
ぬりのころねつるこじ伯
る市く　宮掛も百歳を

よハ秋とく　孟嘗の地
伯るれぐこう　孟嘗の地
ハ何ぐ面　孟嘗の地
ちろやこ
こげよりひ
つる芋の花の色
ひころこ
孟嘗陸う知し
こぐこりの
いるの伯そ
指ろこ
こ
おかの不ろも
とあるぬと
つこまろ
ぐこ伯市
孟嘗陸の色をとこ
ひなく
おまぬに
こ
こ
ぐこ
ひこ
ぬこ
こ
こ
こ

三 浮舟の方の媒の姉、浮舟への文
ばかりはかうかうぬるべ
き

細 贖の字法て
明 贖劣し礼を
贖銅と律
よりこれなり師大
法よりなりんよりを
ものとかうかう
わ〜と考法らひ
るとかねのんよりも
かうこうこうかう
かう美物は崔烈とふ銭
を物て大臣よりを銅貨
とひすすめり 畧記
何の方と 細 媒の何
も同じものなれど
なほ盃のひと
めもとのかたぐ〜
れぐれかうよりも
きんとく

しまとこうかねよりこ
ひつてこうこうこうげよめでうと
やくこうこうこうもれば細かねと師考法と四金ものこうこうとはこうげこと
いこうまで。おくこうこうこうもこうこうこうね
まり。おどろよりんぞ。贖号
ぞ。おやうりかどろくこうこと。こうこと。海
つこうこう細母のこうこと盃かねと
こうこうこうこ

かねみどりこの人よ
おほ海のうなのかねみど
りはるとなるとあまの
とをとめ

かくせとなりあまりもも
おはえよもぎ生て生出
のりぐ。えおかりせもとをもり
ちりののりをふすよをもぐ
りんるすわるまぐるるす
みもわるもとと

うえのみもとをひろすす
ひ海あを常陸ちのみと
もみみすぬるもをひ
ろるぐしして京文外
のむをめとをひやす
やれ人とみ京をハ
えのはとをんを
るぐさん海ぐりし
こをとりぐやをめ
ぐーるぐ母のあく
やりるる笑義

つの行の人よ
さ海を。表やややよをこれをりて。行ひ
ろ海いまりぐ。生てを出
ぐ。えおかりせもとをもり
ちりののりをふすよをもぐ
りんるすわるまぐるるす
みもわるもとと

うえのみもとをひろすす
ひ海あを常陸ちのみと
もみみすぬるもをひ
ろるぐしして京文外
のむをめとをひやす
やれ人とみ京をハ
えのはとをんを
るぐさん海ぐりし
こをとりぐやをめ
ぐーるぐ母のあく
やりるる笑義

中ぐろのくくいくぐ海よ。女いまり
てをそれろやあんおとをあくとと海母
のとをくんめそくいそぐさよ。ごるこ
をんいんめそくいそぐさよ。ごるこ
みもはをこるのどうよおくれくびそ
くをりくあ母めりくよ。くくとくりりくそ。ぐく
し海母を移くと。そぐくりりる所りるくひぐけて。紙をと
ひぐそ。おくれけくぐをぐくむと
をおりけるくくりゆくるくくめ
海をおぐむくそりんれ姫とばりくを用武要せ海をを望あ
ぐ。やをくの自僧の句くくやくるんをふぐらり女
ぐ紙そ。やをくもぐのを海をめくこ
海のをと会られくくかねのをくをくくく

盃
[illegible]
三 かねのかの源よる
らんとのうくそたちかくて
我はとあをとりしる
[illegible]

[illegible]
三 浦舟のう
[illegible]
[illegible]
細同じ
盃をせめて義経の母
の御と 仰 我は考陸のみ
も浦舟ともゆるぎやう

[illegible]
[illegible]
[illegible]

くひさうてうの
あうをみまうりう
はさいとこいあうん
うもうまうとせて
のうすよいひうくさめ
うう河し暁義経
あうまはさ母とも
盃浪矢のあんうう
もはかおのうまとう
ふもうまうとめしの
うも

たのうまうの 細々書うり
按察の大納言ハ結婚よ
うせうり 義とひとみて
うはいんまう

を考へまうで、くんうらあうくいまうけう
なるとうう 浪矢とうう
えるれば、あうまはさ母とうまうらざう
う。もう考へどいんうをあうり物をひきうう
盃義経
らんんようそうせをうまうくれ大将殿
のはさいうの
のはさいうう
うう食のづうらうう作うれ義よくう
ゆうう浪矢うり、れをくをよまうをてううとゆが
しうりねうとうんいわる母そうう や、人の
細母の視
いうをうけばう幸ばゆがうけうん人とべう
じとのうく。たのゆか廣描察人納言武
ゆうう矢うどのいとわんどうよりのうう浪
れど、うくをうしてみどのはうづう

ひすめとえまうる義経いくぐうりの人を
かゆめやうみはゆがうん細母三人をみうくうう
はううるあうくうて、ゆがくもうんとはゆがう
うりうんそんれううげよりでうきれあうう
うれどもいうもむううべうきうことやうう。
細中義
うのうんううくうらうべんと世よりうれ
どゆはううくうよゆがううればいうみも
いうみうとううさんいううん人のうくうそめや
うくうのうりうさうとゆはあうう。親方うて
義経の母の
うもうりうみうさ。義経の母のはうはいうとううけ
うううゆうしくゆがうくうかうくゆうをうう
義経の母のはうはいうとううけ
どん人うどうゆうゆがうでうもくべいうぐうり

この母義経のはうう
あうくうて 三 義のゆう
のうすうはうどよハうう
もはんどうんとう

義とりつく
義とりつく
六義のうゆう物とた
うとうり

義方うてもうりうさ
三 浪矢の母し八義の
ゆうう。豊後とうとはうん
ううべてうう

三 今度のお初のすを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うれハせよ母ゐきさまハ
やハ　孟ハの方ハいまのむ
をめをなろそうよそふ
とうゝゝてうしやせよ
母ゐきさまもあろりど
ふしいろく
めのゝゝゝゝゝゝてて
ろひ　三　ものうつひ
をめのかたゝし
をそゝしてゝゝやゝし
異　饗のをゝのゝし
あふゝ人のことゞ母よ
ゐをゝられろゝ人うとと
とやゝど　母の法ハゝ
ろいうをゝられゝ人と

ぬ方ゝゞゐくゝれゞゝちいれゞといひて
しゝうべゝゞ　明　注母ニ不義ニ注ニ云ハ同
細ちの同　師　母のつゝぶんはんゝゝりと脱ニ注
てゝゝゝ人のはんハうつをゝてぬゞゞ切れ
ゞゝをゐれゞゝりをいてくいゝひゝる
ち注ゞゝゝゝゝをひつをゝれハせよ母ゐをゝ
みいゐくやいあゝゝて姫とひゝゝりゐたく
ゐゝゝゝゝゝゝ

[illegible]
細[illegible]
作[illegible]
[illegible]
[illegible]

おなじ[illegible]

[illegible]

[illegible]

みのひとつのみよ
三 二条院讃岐

[illegible]

暁 浦舟の母れ中宮の
[illegible]

[illegible]

暁 [illegible]
[illegible]

[illegible] 細 白の法
[illegible] 孟中宮のわ 仰浮

浦舟のかたち [illegible] 浦舟よ [illegible] 細 [illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible] 細 中宮の [illegible]
[illegible]

[illegible]

孟中宮の [illegible]
[illegible] 孟八宮の [illegible]
[illegible]

細 [illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

武尊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人のくつふようつけてをもひつづれてかね
とめやもとさ程とおひろこころもちたれ
しくげよこしなりこしなどべりそりこと
ひくいぐもくあるべしくとひるりぬ
わるべのくるひ出くすのつまりのぞき
をくるとうらもとてもちろうもち地つ
までをんれるるる結びどもひ歌ね
しぞ今ハ一歌をんぶるもぶつるさ
こそらるれて出づるぐさめあて
だていでを結ぶる海のくをくるもも
ふるとをあくまぐまりひやうよかうを

人のくつふようつけてをもひつづれてかね
とめやもとさ程とおひろこころもちたれ
しくげよこしなりこしなどべりそりこと
ひくいぐもくあるべしくとひるりぬ
わるべのくるひ出くすのつまりのぞき
をくるとうらもとてもちろうもち地つ
までをんれるるる結びどもひ歌ね
しぞ今ハ一歌をんぶるもぶつるさ
こそらるれて出づるぐさめあて
だていでを結ぶる海のくをくるもも
ふるとをあくまぐまりひやうよかうを

ぬ
ぬ
ぬ

[illegible]

侍の　三　かねの浮舟を

遠変の子を人も知け[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

このまちうりの母云
三 浦舟の母とうめく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の文ぐさに　晩春文の
れうとうとうとうの文
ものうらうとのものふ

れあやまちよ　細白乃
逆手のしさまつる人中
所文のあやまちとし
所文の逆手人中者
のとくめまちせ文人
ゆそとさとうれての結
お細
文人間よとちう
細茅文流し　所文の内
裏よとまちまべと
みをそてうちの物語
しやちうぐうぐそ
とい白文のおうせぬま
みとそうぬらて
中文のうとかつちう
とし

うもいうて文世をへて
さうりいうて文者ものと
みくうれあまりさそと

らひ結つぐうしうべいとあくくをうて
盃白の所うりよ細作結ちうとと
文のれうとうりよ今までさつくひ結つうたさ
をいとけぐうて解意盃白の逆手文
れあやまちよ
とうとうくまへ
盃中者の細し　所文のれうとうまひしくと
ちうまへのおはぐ
みうくされうう
和茅よ流し
結文人間よとまち結めうとをとうとうで
ちくどおつ
つくげよゆの
へのまちれぐ
うとあくくい
中者のと
へ結さくをい

盃中者の細し　所文のれうとうまひしくと
ちうまへげよとちうぐうぐそ
とうとうつりつ
ゆくくうつ
ちうとうで
ちくめうれ
というぐうう世をへて
ちよくうれ

程のさうくれいひあ
てくうのちうれい
者の者文よいもとへ
ねとむうくうち減くく
をいのそめくまれい
今もちあるさまに
いあうくとうりうやあ
らんと中者の推察くを
ど者人者文よとひまふ
ゆくうとく
いくまちねいまりあうち
者のの表さと中者も思
本ちねいとひちうまと
の人北本石皆有精白集
四北本石遊仙窟
うう者ちんちをやむう
細者世くとくちらの
よせくみをくさのの
ものくくさのちひあく
所結舟のちくくくく
よちまれうりぶよあう
しちく

どのをいあうちんち紙あさうくどいひそめて
しくくのちくどうれいけうみうくくしと
くやみどくくう結てくくへのれうくさい
ちうくを拍ちうれいえりてあ明ちくよ表ちう
れんざち紙いいまちうれいあちあ明くちあ
者中者と者のくくむうと結くくくを明れいとちうる
くくうちけくくうれくうちをやむあを
そうさをちくくせちくくまちくく世明ちくの
やあくんのくくの結いでくいとを世びてこ
のちくうよちんと明のめ　くくくし結をう
細うのくくの結舟も中結くくえちひくうちいちいくくいくくくうよ
れをちちくくのくうちいちいくくいくくくうよ
ちれとくうちけよふくくうんうちうさ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとしかりけるもとのかたちの
なりけるを
盂蘭盆の経に若有人聞是経王菩薩本事品能随喜讃善者是人現世口中常出青蓮花香身毛孔中常出栴檀之香正法念経
細 法華経に若有人聞是経王菩薩本事品能随喜讃善者是人現世口中常出青蓮花香身毛孔中常出栴檀之香正法念経
細 河海抄に云
盂蘭盆のこと
細 三法華経第五
三 法華経第五
細 三法華経第五
三 法華経第五
細 盂蘭盆の事
細 盂蘭盆の事
細 盂蘭盆の事

云修羅〳〵戰ハ付半頭
梅檀を疵よめれハ部
愈〳〵〳〵牛頭の如く
ゐる山〳〵を山よ梅檀
ハせもゐる〳〵 孟
ゑハ母ひて 細中ゐゐ
孟中ゐ〳〵蓋の涙母ハの
ど母ひてのゐひゐれど
山ゐよ修ゐん

ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵

いとくるの中よりとて
細世をとをむりをんたをみさ
まよりやらくせんとをおも
りひめぐくをべーとん
師清原のうんとをひさ
をむべさ猶とり
花いとくん紫保の中よ
をまいくん世のくををりの
笑くくをん

（細業の性とてみりちさのりハをりぐうくと
やくうくさのんぐくさよくちくけて。ゆくさ紀
のをくさん面ハをりぐくさとく打るげくさて。こ
くよ物しものを結つぐてなりぬ明めれば車を（盃吉漢う
さくうふ方を逸くよ来く　吉漢ぐしを
めの後をを歩方をまりひと
ぐくをげよとびやうくれいりうぐけりりくよ
ろげよしくよりくくをくさをてるん紀をぐうく（母の中天人の母
させて。いくの中みとも。いくよとくひ
をんめぐくく伯紀。げよくべらぐとも。ゆも
りくれとげ。をりぐく。をとをくんをを
みぐ。（イキ十二）をくちるをつくくをてこれくと
をいくんがくくをりいぬくちよくちくれ
をんくを。（三中天のおりをう二車宮のをりをを面）いまりりくくおりくくを面

（細母ふ方のひとの
ををりをを紀
をりをりをを
をりをりをを
をりをりをを

どのうへ　細　書陰殿と
殿の字を加へてふとい
ひ盃に作て殿と
ハ五ふとあるさは代の
元ねいうへ

あてさうじををく
しく　お　法師の母方の上
ようんじて受領ぐらの書
よりさうとハ法師のすを
ちいどとう

うち殿そひかとうそこと
ちめきて　細　田舎びわ
しきとう　三　ぶ附ハ人
見ちゝぬ物をつゝ物し仍
わゝくしきを祝ときさ
ちめきてうと不審しさ
ま　ふう
六　補ちどうろくての比なと

殿やうれとまゝひゆるとき
くもげよこうよりのとれ行やとうるくゝ
ふぐこのはの方のくとをよゆゝめそなの
れをんぐきくるゝまりくえてろゝま
してさゝゝどじうるるくゝやつしく
うんというゝくあくゝくゝひなり
ぬ字いりうて中宮にうるまて
ひうら殿といふ人やうよ
よりう絵ゝあうあさゝけよいそぎいく
つうゝ殿そひるどこそこうゝめうて
うゝうんるどゝる絵ゝううひての絵ゝて
ようくうとうゝいうくうと殿りて殿いふ
房ゝ中宮の句ゝ
うどゝわうくうてのうゝ殿ぶうしてきる

ちうて　物中宮の殿女の六
補ゝ殿ゝうと書陰の
ふう方をのうゝ

うきゝ殿いうて
細　庚刑ゝ　ハ法ゝ
物をうんとゝものゝうて
をあゝ物をなきゝ殿ハ
うてぐうぐよわうれ
ねゝう

うんゝうてゝ　三　韵ゝて
ぎハ書に人のゝうれぬ詩
集の韵字をくうて
推ちうゝ

人ゝぐうよゝるゝ人ゝうゝもうくぎゝうを人ゆ
くゝげゝめゝもの絵ゝかをうれ人のうくうゝ
ゝうぐうゝうをのうゝつゝようゝうゝ絵ゝうゝ
うきゝ殿ゝうて　細　白のうゝうゝゝゝ
ゝげよゝうゝ　ゝゝもうゝぐ絵ゝうゝ
りゝうゝうゝ人ぐゝあゝうゝうゝうんゝ殿
よゝうゝうゝぬ　ゝゝ　明ゝ中宮
うゝうゝうゝ　三　ゝ
ゝげうて殿ゝうの殿ゝ殿ゝうゝ
ちうんゝうて　細　白の寝殿より中宮の方へ
盃白の寝殿より中宮の方へ
うゝうゝ
うのうゝうゝうゝ人ぐうゝうゝうゝ

九十月　細　九月作云月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

屏風のつまりのそこなる
三ぬきかど
もをあらべし

屏風のつまりのそこなる
付て白玉の
の一生の不幸入殺よばる
ようなりて分をいろ〳〵に
なりて乞世の不幸を
おん人のようくんとする
もろうてあくるる程を
なりて天命れのがれ
るとは世のんよ
らるるべし
三いろるるあとの涙
をひきそそぎ

ようなりてのつ〳〵ようかを
なりて 作白玉の
なるべくざる和のつ〳〵に
よく八屏風をのこ
へりかとりて 後
三白玉のかとりをの
かさ毎へひきそそぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

例のそうこぬれさうあと
三 左近がんしゐうぞ白
えぞしとそ

あさましくうたてよれ
ども 三 中将あつそん
いいそしんくのそうく
まれど白えいかしもれ
ぎうどさいぎあくぬと
いとそうこでのいそいう
よハ お浦舟とたをのひ
つさ母えづくんがをど
のあくちくひよいあぞと
ぬぎとし

例のそうこぬれさうあと
浦五の承引あるちうき
女のふあくを浦まづきくとくそうこ
ぎ・げよいとをうの母
左をいうよう中のしさをん いまうあうて浦舟
よくそい左のびてうくをあくそこ
とおさまくくうさわようれをくをへぞ
えいとどら浦うぞ・あさましくさまてあてよ
かうきんうれるとうよんんたをどい
ひつそうくうをくをいとをうるべての今あう
みはあくぎうとうろえくくぎされ
てとうひくいいひくくくを浦ふづさなげう
きくさだくをうてうるうどくいうで

左近うんうちうくくそ
三 中将んぜ浦舟とし
うの母もいうよあいくち
三 浦舟の母こそをいん
平と中将もうくくか
ぎとし

迷惑うをうぬ
盃屋ひうを
うちあづり母りつるうぐいとあくそれぞ浦ありう白えのを
てうらうん浦左をうん中将へよろうくくそおうて
ませいとかくいうよりりをうんうをあ
ぬれど・細中将の匂ぬいのうろうさけうれ
いうよあくくをうくそうくぬうを浦よ浦
うんとをうんうろやをくくをぬくいひを
きうう物をとくいとかくぎがをどいぐ
えんぎうくんんをうをうをうろうよろ
くきいくをて浦うぐ・おやくさんんのれうを
うれぐいうてくハをうり浦うんんと・あさまくて
三 中将のうを
よりのもいをうれ浦うをぬど・左を匂
ぎ浦四ふく・あうをびくうをふまうをべれいも

三白文

細白の毛孝之 孟早素之

中務の文もまいりてとのゐ

細中文の事

お中文文の事

きいづを伯つとりとどげよにろよ付ぐ

白のこと

細客分の心

細孝法ヲ分

細方辺か修之 孟ひとのか修のこと

細ガウ魔ガウ

細白の毛孝之

孟白の乳母のこと

孟とうてての人のけうこうれやう

見

孟ハうの白文とりうるさ人とゆうのこと

孟その人ゆうバうんど

細孝法ヲ分

孟 法身こと

細方辺か修之

孟ひとのか修のこと

細ガウ魔ガウ

細孝法ヲ分

孟 法身こと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細白表内あり
ひかりかがやくこそ出給へるなれ
白の表の内の
うへのはかまの
うしろのはかまの
うしろのこそ
出給へ
白の表の内の
裏一の道にはかまのうしろ
方
のうしろ出給へ
細中表の
白の表の内の
裏一の道にはかまのうしろ
方
のうしろ出給へ
中表の

孟不旅堵 仙法教流離

[illegible]

[illegible]

[illegible]

表よりのんそふ人をおくさ
り　三　そふを前後へ
つけてそふ狭前せ板の
白法

年ごろのとしろうよのこ
ろひ　お兄弟の教みを
いとごろ〜ゆ〜ゆ〜八策
よりりしゆうそもあ
ゑ

ごとよいとうい　大矢よ似ろう浮舟のこと
れば　すぐ　むくろして表よりん　細大矢の中矢とひ〜やく〜ゆ〜
人りるさ多よむ〜のれこ〜ろざ〜れやう　三浮舟
よりかさはいとうきくるんなどと
らひまへどいと浮舟のこと　つまうてきてひるひ　細浮
ろんよ　舟の角　いとうへこ〜ろてんことりるくて　弁
ゆ〜ゆ〜ゆ〜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

を[illegible]ハ実よりあひて別を
ぬとて[illegible]何つりて[illegible]るこや 細 三月義
[illegible]みをや
[illegible]のわ[illegible]とあひてもありぬんをやどり給ひんとて[illegible]
みと車こひて 義考注
[illegible]
[illegible]

人もろ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]

孟 上鼈も拙みくそは
[illegible]仰拙ね
[illegible]ハ上鼈もあり下
鼈とみすりとこ中表
[illegible]ぬを
小方の嫉妬ふ[illegible]
よくやと
[illegible]の仰[illegible]ん 細 花多
の仮いくつ[illegible]ハ狐の
性の影こ狐ハ狐疑とそ
拙とつ[illegible]ん[illegible]のあり

[illegible]とかこ[illegible]ものくてあひてをあ
[illegible]
[illegible]てのふるをあ[illegible]こ 孟 みち[illegible]ど
[illegible]ど給ん[illegible]と[illegible]こ 発
[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三　蓋の近おろし
このはゝ月ひとりけを
お浦舟の月一けをき
おろきこゝ母のゝ

ぎゝぶりいぶひ
ゝろよゝぎゝしゝゝぞ
三　ゝゝゝゝゝゝゝゝ俗姓
ゝゝ月をゝゝゝゝゝゝ
ゝ俗姓をゝゝゝのゝ
このはゝりいゝゝと
細あゝのはゝゝなゝ
ゝゝりをいひゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ

をしまうれぬようにつぶてくいこうりゐさ
しまりうこにんぎそく　おほ舟
と母と長別まあんをを
をこぶひよそつし
きうしくまあるわこを
伺　曹子こ也　師つれ
ゐどよあるんどりのう
こば氣もさうことは
ひくこうり
いひをきて作るもころ
めこうれと　薬元のう
ゐどハひ付接こうとい
へども拔んれをくて
母のそよありこうれぐも
こうり
りろんよさゐあく
おほ舟の母の孝陸とこ
んまうりてあねのうを
いとゐうねとこ孝孝陸こ
みうくこうこあうれれ
れ　たうと光りみ海舟のう
のゐうまさゐくこうり

さこびおけんれこるくひて　うここよころ
ぼうくこうりうこ　母の海舟よりの文　三家
のお拔ゐうをそう　とうこくいちごうくあ
ぐれてあゐそうげうう而ゐうりこうんちゐ　月んあれこ
ざうしくまあるゐぐこをめしいぐ法うひ
　孟　義元こ
ゐんぐんこるどいひをきて作う
　薩摩のこうま母の悪ねを
こうこうめこうれどうこまいくこうう
　お母の学
ゐこうんこうこうこうこうこうこうれどこうこ
　薩こ
陸ゐ孝陸ゐ
ゐこうこ　薩摩のかねこ
ゐうこうこ　お母ひをうこうんゐうさ
りまひいそごて　りうごろまさ海あ
くいとゐまずとゐんどゐゐくりいとんくく
　孟　お將元よ海舟のゐよりてこの幸労をゐうと母のゐこ
このんまうりうりうまざれどりくあうぞう
しとゐこうこうこうこうこうこうこうれば法

あんばゐねとつくこ是
えてゐねのゐをこうく
ゐうこうれざうここ
ゐの三十のこおゐよんゐ
ゐく　細　白の法華こ
ひおねをゐうこゐよんゐ
ゐりりこうこさて海
舟の舞ゐとうべきこの
んハこさませうここ
ゐこうねゐよ　師いつま
をゐゐうひこなりう
うき舟ゐあいをんを母
のうこうこうねというゐ
ねをむこゐせざりこ
のこうゐりうさハやこうう
ここ
ううめゐど　孟　板ゐの
ゐを引こく翁を押く
りつけてざねの裏ゐ
ゐうここ　裾ゐどこ四し
こここのりあひここ
むゐめゐどごうここり
　三　孝陸ゐむゐうけゐの
方服ゐり

らくこうこうこうこうこうこうこうこうれどこのえ　白
のけまんこまこうこうこうこうこうこうこうこ　おひ
くこうひゐうこうこうこうこうこうこうこうこ
づまりをたこどゐりひいここはやみゐこう
　孟　お將元の祈を母のゐまんここ
家こうこいいうどここねゐこうこうこうこう
こうこうねゐこうこのどこうこねゐこうこ　お將のこ
ゐつここここここここここここここりこ　母のこ
ゐこうこ　お將の師こ
ぐここここうこうこうこうこうこうこうこ
梅のゐここここ　三こ元
こうここのこうこうこうこうこうこうこうこ
こうここのここここここここここここここ
こここここここここここここここここここ
こここここここここここここここここここ
こここここここここここここここここここ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のぢよとちうさうこうでそひろうまでさうしゆそく孟子あるいはのぢよとをりこ
高陽郡のしもあるのこんさ高とをりこ
こ高の陽こし細母のんこ
きそしハこの陽よしうよ
母を実こうろこ
つこうこうでんとひこ
おほ母をハこの陽こ
人のこうこ係こさ
いこいとし母のこひあろ
うろこ
あいこう細わうこさる
うこうこうんこ
うろこうふこ

三

れるこうがうこうこ
ここ孟業これる
ぐこそこさこだこさこほ
をこれるぐこもこさぐい
ここきこ

わうこさんこうこて
細こうこさうこ果浮母も
ろうこをこうやこうんん
ここ母のんこ
我ねはよせんと細ムかねの
ろうこをこうねはよせん
こうこもロ情母ここ
孟かねをこうこハ後悔ここ
ここやこうこてやこ
こうこてやこうこんこ
こやこうこんこ

ここうこうこんん業れを
こうこうこんこうここ母
こうこうこうこのこる
らぐこうここ浮母よんを
いぐこうこ
こあこうんこ
世のんのうこ細こ
こうこうんのうこわこ
こうこ孟世間のんの上を
こんこてうこ仰こ
こいんこうこうこもここ

ろれば
浮こうこ
孟こうこ
こ祇ねはよんこ
んこここ
業のこ
こうこ
やこうこ
てやこうこ
こうこ
こうこ
業のこ
やこうこ
こうこ
こうこ
こ

つとあてるろいんも孔もま
さるべくもとく

三 蓋のゆを法
母の母乃毫角ゐよく
つてとひめろふ。奇
代の女二宗をえるる
るく

三 法母のゆをろ三案
ゐろりのゐのゐ

うゐてゐるまは母のやくゐるゐゐく
もをゐろるよこのゐゐにゐるべさやいある。
かねをこの。あ乃ろゐるよゐるゐりのう
ゐゐどゐ。宗（自）よゐゐくべてまりしゐいを
もはあゐるるよゐゐゐるべ代（ば）の
れうづさしもめ代えをゐるるゐん人の（孟 蓋の女）
宗のれめゐるよゐ母のゐ
れめゐるはいとゐくゐづゐくつ
ゐゐるべさゐりのれとゐふもゐどゐるよん
ゐをあくべれよゐゐ。（細 三案のゐゐく）ゐびのやどりいつれぐ
ゐて。（みよゐるぬ案の生ゐゐゐゐとゐびせゐさと八ゐ）ゐの母もいびをゐさゐゐゐをゐよい
やゐさあべるまべゐゐゐりのどもべりの
ゐいべくいゐ。ゐべゐめよゐゐるべゐ前載のん
ゐをゐ。ゐゐあべれてべれべくゐゐ（孟 ゐのゐれぬゐゐく 呪）

母蓋べ行やゐ（細 母蓋とは法ゐゐゐゐ
難用之。ゐ皆よはやゐゐ
ゐべひゐゐゐん。母蓋べゐ
やゐ。八代母蓋方を早下
してあれど今八代母
よゐりてゐやべゐて
久をゐゐゐゐ師今
ゐて八代母早下ゐ宗
べはまゐく法母のゐよ
ゐゐゐゐゐゐゐ母よ
母蓋めゐてひあゐふ
やゐ人のゐりくあん

三 法母のゐよ中ゐゐとゐ出ゐゐく
ゐべゐ人のれありゐ海ゐ（細 白ゐゐく）
ひ出ゐよ。ゐゐひゐゐよ宗ゐゐゐゐ。あや
みべべゐまゐゐし人のれけをひもゐずべ
よゐべゐれくゐよべゐよりゐんいと
出ゐく表べよの結ゐれゐべゐゐゐ
しれゐゐべもべゐりべゐゐゐゐして。
出ゐゐゐゐゐゐゐ。母蓋べりや
ゐいとあゐれげゐゐゐとゐとをゐ
法（細 法母のゐくゐ出ゐ運ゐく 蓋ゐ宗のゐゐゐ）
法ゐゐゐゐゐゐべゐゐゐゐゐひ
法めゐよ。ゐひゐゐりくありゐれをゐゐ
ゐくゐゐれゐ（細 母の文の自ゐ）ゐいよつれべよゐゐるゐぬ
ゐゐ法ゐゐんゐべ母べゐよゐ。

[illegible]

細 浮世のをもかげ（仲世を盛めてそろえ書く）
ぬれてとりよつれくいるようんやもくてうん
浮世
ひとさみうようれてうまし世界にあう
ぬれと世はあくぬとろをりとめても
世のく
うまくよりうくとするとそうとうそで
（巧放情）
つくぷうそやうよりてるもとくいそで
くれで
浮世
うきさ世はあくぬとろをりとめても
えがうとうとろよりりれどそ紙くし
きとそどをいひうてるんうとのべ者
（業ふ）
るうのたれ殿い逢いの秋ふくなりもしてろ
（細太夫節）
ひみてとるれいねぶめくよ物と
それをず義よのそえて治それぶうの

（孟奇八遠去男）
うきさを毎のそうをを
みのやうにあうのまくあ
さををくしというう
うがうちん殿こうこ
こいとそれぐくしう
物そもの寝殿をぶ
ちて寄よりりの
ちん殿の作よ又ちん殿
をあうくしく作べ
しとおよあうしく
ひていとうこそぶく
ひぶうこう
三 八条の伝兵ひ
内そうこうもうこう

（孟仲殿）
うひうそてつこて治ようづう
らおいうまうしひこうう治いぶり
つうよ山の紅梁もめづくもうぶり世ぶ
ちうん殿こうこいとそれぐくもう
（孟仲殿）
ちて寄よりりの
ちん殿の作よ又ちん殿
をあうくしく作べ
しとおよあうしく
ひていとうこそぶく
ひぶうこう
三 八条の伝兵ひ
内そうこうもうこう
ぶうこうそて
すもるとうひ出うよ
（孟殿文のおりまうくちんてんを作り）
ぶうくまてさ海うてぶうもくう
（孟殿文のおりまうくちんてんを作り）
（飛）
をうこうぶうくまてさ海うてぶうもくう
（姫君殿のれうこうこう）
ぶうくまてさ海うてぶうもくう
治りとまくしてい出うくうひいとこうとげよ
（姫君殿のれうこうこう）
ていまくしてい出うくうひいとこうとげよ
一うこうくうくうくうこと女うくこ海やうよるど
あうくくうくうくうこと女うくこ海やうよるど
（孟伊情貝）
あうくくうくうくうこと女うくこ海やうよるど

山ざとめきこころぐるも
おそはいかもん殿のをを
べ引ふしをふるぐし
いとこもとそそ次
細古文の山附省略せ
れしるどもいかなるく
られこと
こころもこころれど 孟業の
宇治の文ふ風来の知文
のるまどもひつこねて
ちづく所なり
こえこてぬ 細古文のり
なり所うこのさぬもこ
人をこうろい宿もむう
しよくられるよちこげの
ミこえぞいふ〳〵とおを
およ業こをまり

あの人いさいつごろ文みと
三 浦舟の旬文をみろみと

のぐよ こころ文よるこせまつり山ざと浦
こころぐ 孟業 ぐもとここころをこせまそ
いここと こをこそどいこここげよゆて
しく ちここれころやまのはとり
ちろ思よ みを結てここみもこれど
孟業の文 こえこてぬこあちよまどろかさんの西
げとぐこよとぐめざりをん海をのぐひつ
弁の尾ぞのここよ立こりまてれいこと 弁ころ
ることこをこなこよ ぐひこそよひこむる 孟業
げちよう こうそめよおまて そぐれの巻紙
のもの 孟業 孟業の文 弁 孟業 孟方
ひさあぐて 孟弁よ 細孟業の旬 浦舟の旬 細孟業の旬 浦舟の旬
こり このつみぐよ の人いさいつごろ文

いここぐふこそここ
おりの中文人母のあをあさ
てこ紅梅つここて作
を紙いぞこるまぬ
てみてこみもまこ
らんとゆて浦舟とい
ざまふとあこ一ゆ老
こここちこきぞぐこまこ
ちい 三 宇治の京人近く
い浦舟を宇治よをきた
ここく

ここばここんやここんホ
おお浦舟のみこ三条のこと

みここ こ こ こ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いろこめ 細 伊賀へこ
めしあくにあるこ
ろ 孔とこ 孔の名こと
ぢなよ ぞこ 宮の
ふハ媒とこ 媒の物と
いのこ ろのこと
ぐこ 伊河ニ 伊賀郡
女媒こ 孔よこ
つり 擊 今俗ニ呼ニ老女ー
為事 漢語抄 暑記こ
花ニ去伝日記よあこ
のこめこ物伝よ
ぬこ こめぬこの
何とひこり細媒といふ
この法伝可有ニ 所勞
こて 媒こ
作こ こ
の物こ
ん の物こ 細 蓋の性の事
物こ 蓋の發端よ
くこ こ
ぬこ 細

ん ひのやこよ とこ 物こん も海こ
こよいこ こめこ つ こ て ん と
こ 細 蓋の泡 伊 こ
こ ぬ こ こ
と こ て あ こ の ま れ ば 古 こ 物 い ひ こ の
こ の む こ め こ ん こ こ め こ こ ん こ
つ れ こ ん こ や こ の こ む の ぬ こ い こ あ こ
く こ げ ぬ め こ と の こ ま ん こ こ ひ
て い こ め こ と こ ふ こ こ こ ま れ い 出 法 こ こ
草 の 物 こ こ 花 こ も 紅 葉 ふ こ や こ せ こ て
細 女二こ 蓋の家 こ
こ よ れ こ ん こ こ せ 法 こ ひ こ こ こ こ り こ
ぬ こ こ れ こ こ こ こ

細古今のうた
いめ〳〵しうのうたをもひ出られく。
なげめらるゝてんきろさろいとつれぐ
よんめをそ雨なればうやをくひ
さいれてゞくるんまりうとろへの
とのうていをとられば初瀬のとをり
をしゝうゝ人出をそおろをあやをさ雨と
なげめらるゝをよむゝゝるも
べさひとめうればうまくてしびれる
てぬやゝ変えろへのはわりの人とを
よむつまゝさるゞゝ多よんをれどを
ならゝ後ろいひ出をそをぬりを
けをど世中うゝろひをへとてろ多よ

てゞめまよゝ孟中老てゝ
をゞくゝ作なゞをまでの後ろをうべをろまへを
のめやゝをさてゝ人の後ろ海なれば
うゝてるんとをの西老もめでを
ゝとをさやゝてゝ人の後ろ海なれば
ををれぬをんの後ろんも長なれど
よろよろくゝがゝをゞろんといひも
ゝゝぞゝをぬ打をゞろ後ゞよゝゞろん
まつれをとゝて門老びやゝろゝろくさ
ゝゝ矢ゝろひゝ弁あけをせゝれば車
ゝやめんとゝ弁をゝ
をゞひをいろゝあやゝとゝをよあま
ぞよゝいめん後ゝんとゝこのゝをゝさ
ゝのあゝゝのをゝゝををせまゝれば。

若もめのゝもめでゝ
とゝををを
三 後弁も乳母も老
を白をゝゝをゝ
てめぞゝとやゝを

ゝをぬゝゝをるゝゝを
細宮後ゝゝといをを
をゝり孟老の出ゝり
て矢ゝ方へ宮後ゝり
後ゝゝといをせれゝ

（細弁）
ぬばたまのよるの風にいとひやかなる吹いりて、ひもすがら
ありわたれば、（細葉）とれもとりあつめたる
心ちしてつゆ色さだまりけるひかりにて
（浮舟のうへ）
ばかりいりぬるあやもさまざまにひめ
ぬはどもれば、ふさぐこと
うめんといひあつかやすきこと
月ごのやうにいとやすくもゆめくさもんとて
（弁はいとくるしきまなこ）
ものんといとくるしうつゆのあつまりこと
（細弁）
ようとおもいたるしげよりそのあるてれば
のときぐらしてもかうしもうこと
んとしらるべしやいかにしらん。

（細母の北方よりの）
あの屋よりそうるんとあびてあつめらる
三条よりの返れば
（孟弁の母）
さほどなれでいつのくもくるどて
孟母やしそそ
うさいあるんわるさはどもあるて
ふるこもきくこもあるとあ
やもさまでふのどるよりのうれて
もうそうるれでうとんのゆるるて
（孟弁の母）
しひはるどふほど。あやはられど。
（細家と孟家の辰巳の中納言の家）
充ハいとくるあるどのあやもさ
もうる東もうるくやうのしりこのと
（孟弁の母）
へくいひさいてあやしこのの人のは車る
のともへいるいひあれるどいひあ

（母の家）
（孟弁の母）
物ものうはんとるれ
（細）あ葉のはるるとも
がいひさうもる

この人乃は車ひるべくと
のるこりれて
葉の車門内へるべ
てあるしるるべ
三門内へいるるべ
入るるるるるの人のいと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三 を作て生をとけ
[illegible] 花 法性寺
八負信又建立し[illegible]
[illegible]之庭を八負信又の
師檀[illegible]れよ法性房
の名をとりて法性寺
といふ[illegible]
[illegible]て[illegible]
[illegible]

[illegible]ハ 三 車の
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]車の
[illegible]
畑 若ハ男女同車の時
[illegible]舟[illegible]
[illegible]車の内よ
[illegible]ハ[illegible]用[illegible] 嫌一説云
男女同車の時或ハ知人

[illegible]の時[illegible]の簾[illegible]
[illegible]て車の中に几帳の
帷[illegible]
ハ細[illegible]

[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]花

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（琴）

（八文字屋本）

（助字）

（不要不用）

（琴）

（八文字屋本）

（孟）

（孟）

（孟）

（孟）

（孟）

（琴）

ま琴をあづまのことよりはせてく書とくよりとくく宝
あるり
やまとことの　細　和琴をみれだくよきを長歌
大和詞を歌の中に
仰大和をかぶるとハ
歌のかくおりて琴
をといはづつるをいと
るり和琴にやまと
の源あればなり
楚王の宮人　細　班
女国中秋扇色楚王
臺上秋琴声白き
扇をとりてうるひなり
てうるひなり
このゆとをのうたく　細　あ
づまるれなるり　俗書
陰してあらくなく
らひうる女房どもを
思ハ詩のんのうるう
らねをばうてやでと
くのうるう

てこうるり　細　仰
班女が秋の扇ハ後よ捨られ
てうるとあるをのうめてうるう
へく詩つくるり　仰　班女ハ漢の成帝の宮女ふく寵をせられ
が後よ寵をうるへを白扇の名りてうるれハ秋後捨せを
こうるれ
細　うるのはるをうるひ
ゆて後梅あるこ浮舟
薫さうあくるり琴
あるうの一なり
あるうるうるに山てうる
あるうる和の下よ
る紙よ筆をがうをと
るこ老人うれハ筆で
よりきうるうるこ
ぐりのうるこ　孟　弁の
うるり言ありはうる
をうんとまれへうる和
と言くにうるく
仰　改紙地こ言よりを
うめるへうる和よん
のうるやうよるり
くうるれうるう
やうりあハ細大言ハ

うるハあるうるのうるをうるこ　花　上の角よ白き扇をあるうるこ
えてうり班女が秋の扇ハ後よ捨られ
てうるとあるをのうめてうるう
へく詩つくるり　仰　班女ハ漢の成帝の宮女ふく寵をせられ
が後よ寵をうるへを白扇の名りてうるれハ秋後捨せを
こうるれ
細　うるのはるをうるひ
ゆて後梅あるこ浮舟
薫さうあくるり琴
あるうの一なり
あるうる和の下よ
る紙よ筆をがうをと
るこ老人うれハ筆で
よりきうるうるこ　孟　弁の
うるり言ありはうる
をうんとまれへうる和
と言くにうるく
仰　改紙地こ言よりを
うめるへうる和よん
のうるやうよるり
くうるれうるう
やうりあハ細大言ハ

[illegible]

墨の名もむつかしきのかも

うつりもろねやの月ぞ　孟子ねのもろこしたくさ

れてと　いかなるくてのまよをさぐるうんつくを

細例の他ちの組

ふるとぞ

[illegible]

墨の名を　細字流るり

苔の人さしあらしやと

ふり　三浮舟とろ月を面ぶりとハそり仰里の名もむつ

ハハそれをくるなた月をやりつりしてそろもとろ

[illegible]